



乾癬患者さんの学習帳

乾癬性関節炎

監修 福島県立医科大学皮膚科 教授 **山本俊幸** 先生

乾癬性関節炎とは？

乾癬には、いくつかの種類があります。

「乾癬性関節炎」はその1つで、

皮膚の症状に加えて、

関節に腫れや痛み、変形などが起こります。

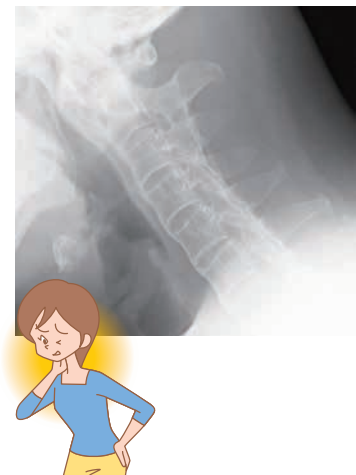
■ 乾癬性関節炎にみられる関節の症状

手指の腫れ・痛み

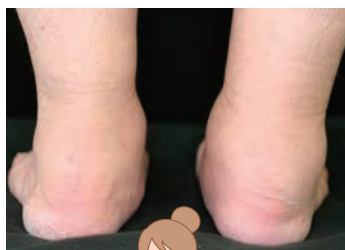


症状は、指先から1つ目の関節
(DIP関節)に起こりやすい

腰痛・首すじの痛み



アキレス腱を つまむと痛む



歩くと足の裏が痛む



爪の乾癬



乾癬性関節炎の患者さんは
爪にも乾癬の症状が出やすい

多くの場合、皮膚の症状が先で、関節の症状は後から出てきますが、どちらも同時に始まる場合や、皮膚よりも関節の症状が先に出ることもあります。

腫れや痛みのある関節では、強い炎症が起こっています。
炎症をそのまま放っておくと、痛みが強くなるばかりでなく、
骨が少しずつ壊されて、変形してしまいます。
このような変化を「**関節破壊**」といいます。

■ 関節破壊の進行

患者さんA (30歳代、女性)



患者さんB (30歳代、女性)



ムチランス型は他の病型よりも
関節破壊の進行が速い

患者さんC (40歳代、男性)



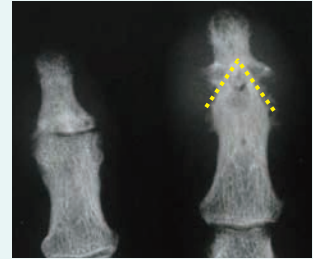
骨シンチグラフィ

乾癬性関節炎は、 症状によって5つの病型(タイプ)に分けられます。

■ 乾癬性関節炎の病型 (Moll & Wrightの分類)

定型的関節炎型

主に手のDIP関節に症状があらわれます。
爪の変形も高率です。



X線写真(Pencil-in-cup像)

ムチランス型

手の甲の骨が壊され、変形が起こります。



対称性関節炎型

手指の複数の関節に症状が起こります。
また、手首、足、首、肩、肘、膝、股関節などさまざまな関節にも症状があらわれます。



非対称性関節炎型

症状のある関節が4カ所以内で、股関節などの大きな関節に障害が及ぶことは少ないタイプです。



きょうちよくせいせきついえん

強直性脊椎炎型

脊椎や骨盤(仙腸関節)に障害が起こり、骨と骨がつながって固まったようになります。背中や腰が痛み、動かしにくくなります。



X線写真(bamboo spine像)

乾癬の治療には、

外用薬(塗り薬)や内服薬(のみ薬)に加え、

生物学的製剤と呼ばれる治療薬(注射薬)が使われます。

■ 乾癬性関節炎の治療に使われる主な薬剤

外用薬 (塗り薬)

外用薬の塗布は、乾癬の皮膚症状に対して行われる基本的な治療です。

- 副腎皮質ホルモン(ステロイド)外用薬：
皮膚の炎症をおさえる効果があり、乾癬の治療で最も多くの患者さんに使用されています。
- 活性型ビタミンD₃外用薬：皮膚表皮の細胞の増殖をおさえる働きがあります。



内服薬 (のみ薬)

皮膚の症状が広範囲に出ている場合や、外用薬で十分な効果が得られなかった場合に使われます。また、乾癬性関節炎の関節の痛みや腫れをやわらげるためにも使われます。

- 非ステロイド性消炎鎮痛薬(NSAIDs)：炎症をしずめ、関節の痛みをやわらげます。
- 抗リウマチ薬：関節リウマチの治療薬で、関節の腫れや痛みをやわらげます。
- 免疫抑制薬：免疫の異常をおさえる働きがあります。

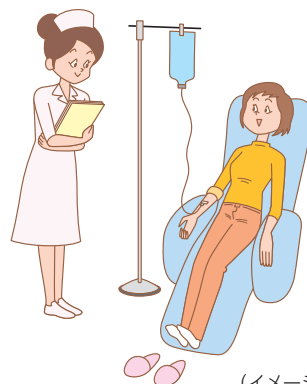


生物学的製剤 (注射薬)

バイオテクノロジーの技術で創られた治療薬です。乾癬と関係の深い体内物質(TNF α 、ILなど)の働きをおさえることによって、効果をあらわします。

- TNF α 阻害薬：
TNF α (ティー・エヌ・エフ・アルファ)の働きをおさえる薬で、点滴で投与する薬剤と皮下注射*で投与する薬剤があります。
- IL阻害薬：
IL(インターロイキン)の働きをおさえる薬で、皮下注射*で投与します。

*皮下注射：皮膚と筋肉の間にある組織に針を刺す注射



(イメージ)



病・医院名



田辺三菱製薬

REC-618D-
2024年7月作成
(審)24VI064